

第 16 回デメンシアカンファレンス 報告要旨

『薬剤性の疑われた被害妄想と意識変容の 1 例』

発表者：石川俊介（福井大学医学部附属病院 神経科精神科）

司 会：東間正人（福井大学医学部附属病院 神経科精神科）

【要 旨】

症例は 91 歳、女性。既往歴として慢性心不全、慢性気管支炎、高血圧症、うつ病があり、14 種類の薬剤を内服していた。「病院の職員に魔術をかけられている」という 2 週間持続している幻視や被害妄想を主訴に紹介初診。エピソードについて追想可能で意識障害は疑わなかった。MMSE 21 点。幻覚妄想の原因疾患として、認知症の BPSD や薬剤性が疑われた。頭部 MRI で海馬の軽度萎縮と脳血流 SPECT で後頭葉内側の血流低下を認めたが MIBG 心筋シンチグラフィや DaT SPECT での集積低下はなかった。脳波では、徐波の混入、後頭優位性の不明瞭化を認めた。抗コリン活性の強い薬剤を中心に薬剤整理を行ったところ、幻覚妄想は消失し、MMSE 25 点に回復し、脳波で徐波の消失と後頭優位性の回復を認め、診断は医薬品誘発性せん妄とした。当初、臨床症状では意識障害が明確ではなく、せん妄を疑わなかったが、脳波でのみ後頭優位性の欠如と徐波の混入という軽微な意識変容を疑う所見が得られた。せん妄の診断が困難な症例においても、軽微な意識変容を同定するのに脳波が有用であると考えた。

【質問・意見】

質問：構成障害には時間的な変動を認めていたのか？

回答：幻視等の時間変動は認めていたが、構成障害の時間変動は確認していない。

質問：症状改善後の SPECT 検査は行っていないのか？

回答：興味のあるところではあるが、検査は行っていない。

質問：幻覚に関してスグレサントの影響も考えるが、スグレサントが追加になってからどのくらい経ってから幻覚が出現しているのか？

回答：2 ヶ月です。

質問：内科薬に関して直近に変更となった薬剤は何か？

回答：当初薬剤性は積極的に疑っておらず情報提供依頼も行っていないため不明。

質問：脳波で基礎波が 8.5Hz と遅いがすでに MCI ということは考えられないのか？

回答：MCI にせん妄が重畳した可能性はある。

コメント：Amnesic MCI には脳波の異常（徐波の混入など）が目立った。